

令和5年度 厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服政策研究事業）
分担研究報告書（職域肝炎ウイルス陽性者・両立支援対策）

群馬県における職域での肝炎ウイルス検査受検及び受療促進の取り組み

研究分担者：柿崎 暁 国立病院機構高崎総合医療センター 臨床研究部 部長
研究協力者：戸島 洋貴 群馬大学医学部附属病院 肝疾患センター 病院講師

研究要旨：就労世代の治療促進のため、職域の肝炎ウイルス検査の受検促進と検査陽性者の適切な治療導入促進を目的とする。職域で加入者数の多い全国健康保険協会（協会けんぽ）を対象に肝炎検査受検・受療の啓発活動を行った。令和元年度に、研究班版簡易リーフレットによる受診勧奨を群馬支部において水平展開し、簡易版導入施設は、肝炎検査数が前年度比較で5.23倍、受検率が4.93倍に増加し、非導入施設（受検数0.71倍、受検率0.68倍）と比較し、有意に肝炎検査受検数・受検率が増加することを示した。令和2年度からは、新たに協会けんぽ版の簡易リーフレットが導入されたため、研究班版と協会けんぽ版簡易リーフレットを施設により選択して使用した。令和4年度は全施設で協会けんぽ版の簡易リーフレットを使用した。研究班版のリーフレットの使用は令和元年～3年度の3年間であった。令和4年度の肝炎検査数と受検率は低下していた。令和2～4年度の職域検診から治療に繋がったC型肝炎治療費助成は40件、人間ドックからの助成は15件であった。職域で活躍する肝炎医療コーディネーターを養成するため、企業の保健管理部門に所属する看護師、保健師へ受講を呼びかけ、令和5年度は30名（25事業所）の肝炎医療コーディネーターを養成した。令和3～5年度で45名の職域の肝炎医療コーディネーターを養成した。

A. 研究目的

群馬県内の職域における肝炎ウイルス検査受検率と受療率向上を目的とする。

C型慢性肝炎患者は自覚症状が乏しいことから、慢性肝炎から肝硬変・肝癌への進行を阻止するためには、肝炎ウイルス検査を受け、自身の感染を知り、適切な治療を受けることが重要である。直接作用型抗ウイルス剤（DAA）治療により、通院の負担が軽減され、就労世代の患者の治療アクセスも各段に向上し、就労世代の治療も促進された。しかし、一方で、未だ肝炎検診を受けていないため自身の感染を知ら

ないキャリアや、感染を知っていても治療を中断し根治に至っていない患者も多く存在する。

本研究では、就労世代の治療促進のため、職域の肝炎ウイルス検査の受検促進と検査陽性者の適切な治療導入促進を目的とした。

B. 研究方法

職域での肝炎ウイルス検査受検促進のため、以下の項目について啓発活動を行った。

（1）全国健康保険協会（協会けんぽ）で

のウイルス検査受検促進

簡易リーフレットによる受検勧奨

(2) 職域検診からの治療費助成数の把握

(3) 職域の肝炎医療コーディネーター養成

成

(倫理面への配慮)

個人情報に配慮し、院内倫理委員会の承認を得た。

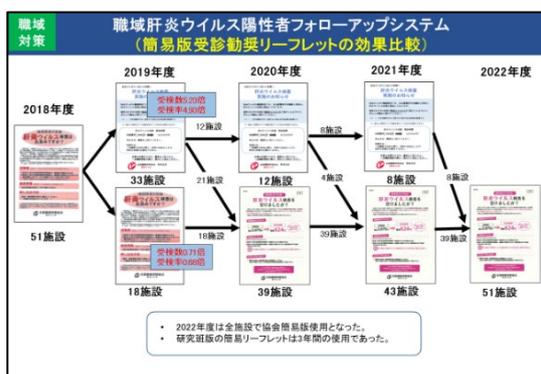
C. 研究結果

(1) 協会けんぽでのウイルス検査受検促進

進



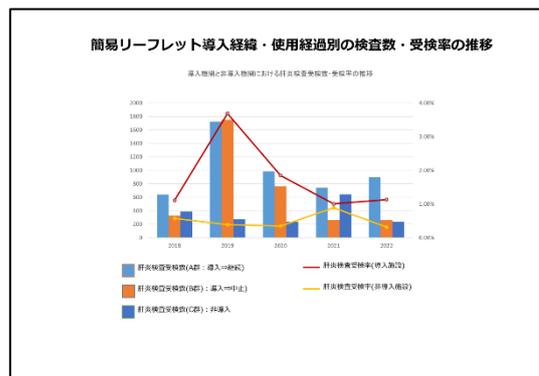
群馬県内の協会けんぽ受託医療機関は51施設である。令和元年度は、51施設の中で33施設が研究班方式、18施設が従来型を使用した。研究班方式を導入した33施設では、前年度と比較して、受検数5.23倍（受検率4.93倍）と増加したのに対し、非導入施設では受検数0.71倍（受検率0.68倍）であった。



令和2年度から、協会けんぽ版簡易リーフレットが新たに導入され、研究班版を使用した施設は12施設、協会けんぽ版使用は39施設であった。令和3年度は、全施設で協会けんぽ簡易版を使用する方針となり、研究班継続使用群は、研究班+協会簡易版併用となった。令和4年度は、全51施設が協会けんぽ版を使用したため、研究班版の使用は令和元年～3年度の3年間であった。令和4年度の肝炎検査数と受検率は、低下していた。



簡易リーフレット別、導入経過別の検討では、令和2年度は研究班版継続使用群の肝炎検査受検率は、他の群よりも有意に高かった。研究班版を継続した群は、他の群と比較して受検率が高かったが、リーフレットの選択は任意のため、施設の意識の違いなどの選択バイアスがある点も考慮する必要があると考えられた。

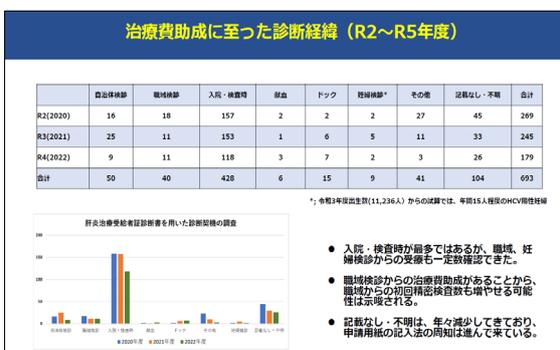


令和4年度の各群の受検数・受検率は、簡易版リーフレット導入前と同程度にまで低下した。研究班版を継続使用した群では、継続中止・非導入群に比べ、検査数・受検率が高く、リーフレット変更も要因として挙げられるが、施設間の啓発意識に差がある可能性も示唆された。

(2) 職域検診からの治療費助成数の把握

C型肝炎治療費助成件数は、平成27年度の1,735件をピークに減少傾向にはあるが、令和4年度は178件の助成があり、累計で9,022件となった。

肝炎治療費助成に至った診断契機は、入院・検査時が最多であったが、職域、人間ドックからの陽性者も治療に繋がっていることが確認された。令和2年度から4年度の職域検診からの治療費助成は40件、人間ドックからの治療費助成は15件であった。



初回精密検査費用助成の対象として、平成31年度から職場の健康診断（職域）で実施する肝炎ウイルス検査も追加された。令和2年度から5年度では、職域からの初回精密検査費用検査助成がなかったことから、治療費助成だけでなく、職域への初回精密検査費用助成は今後の課題と考えられた。



(3) 職域の肝炎医療コーディネーター

肝炎医療コーディネーターの配置が肝炎の受検・受療の促進に有効であることが報告されており、職域において肝炎医療コーディネーターを養成した。肝炎医療コーディネーター研修会への参加を、企業の保健管理部門に所属する看護師、保健師へ呼びかけ、職域での啓発活動の必要性を説明した。全体で令和3年度88名、令和4年度278名、令和5年度246名の肝炎医療コーディネーターを養成した。その内、職域においては、令和3年度11名、令和4年度8名、令和5年度30名（25事業所）の肝炎医療コーディネーターを養成した。企業以外の肝炎医療コーディネーターにも、職域における受診勧奨の必要性を呼び掛けた。

D. 考察

令和元年度に、研究班版簡易リーフレットによる受診勧奨を群馬支部において水平展開し、簡易版導入施設は、肝炎検査数が非導入施設と比較して有意に増加した。令和2年度より協会けんぽ版の簡易リーフレットが併用されたが、肝炎検査数・受検率は減少した。コロナ禍の影響もあり結論付けることは難しいが、簡易リーフレットは導入するだけでなく、簡易リーフレットの種類、内容や適切な使用方法の指導も重要である可能性が示唆された。

職域検診からの肝炎治療費助成が認められ、職域への肝炎受検・受療の啓発効果が確認出来た。一方で、職域の初回精密検査費用助成の周知は今後の課題と考えられた。今年度も職域において25事業所から30名の肝炎医療コーディネーターを養成出来た。

E. 結論

県内で職域での肝炎ウイルス検査受検・受療促進のための取り組みを行った。研究班版簡易型リーフレットによる受診勧奨の有用性が示唆されたが、リーフレットの種類や運用方法の課題も示唆された。

F. 政策提言および実務活動

<政策提言>

群馬県に受診勧奨・受診確認の重要性を提言した。その結果、令和5年度からの群馬県第3次肝炎対策推進計画策定に当たり、検査受検率増加、陽性者の受診率増加、フォローアップ事業参加率の増加、検査結果告知率の増加、肝炎医療コーディネーター配置率の増加が成果指標として採用された。

<研究活動に関連した実務活動>

研究班活動に加えて、群馬県肝炎対策協議会委員として、群馬県感染症・がん疾病対策課、肝炎対策協議会、肝疾患診療連携拠点病院と連携し、群馬県内の肝炎に関する総合的な施策の推進活動及び肝炎撲滅対策に取り組んでいる。

G. 研究発表

1. 論文発表

1. ○戸島洋貴, 柿崎暁, 是永匡紹. ウイルス性肝炎の治療・感染予防. 新しい眼科. 40(9) 1189-1194. 2023
2. 戸所大輔, 戸島洋貴, 柿崎 暁, 是永匡紹, 秋山英雄. 肝炎医療コーディネーター導入による肝炎ウイルス陽性者対応の適正化. 臨床眼科 77(3) 329-334. 2023.
3. 磯田広史, 榎本 大, 高橋宏和, 大野高嗣, 井上泰輔, 池上 正, 井出達也, 徳本良雄, 小川浩司, 瀬戸山博子, 内田義人, 橋本まさみ, 廣田健一, 柿崎 暁, 立木佐知子, 井上貴子, 遠藤美月, 島上哲朗, 荒生祥尚, 井上 淳, 末次 淳, 永田賢治, 是永匡紹. 肝疾患診療連携拠点病院における肝炎医療コーディネーターの現状(第2報). 肝臓. 64(10): 510-513. 2023.
4. 廣田健一, 井上貴子, 小川浩司, 荒生祥尚, 遠藤美月, 池上 正, 戸島洋貴, 末次 淳, 柿崎 暁, 瀬戸山博子, 榎本 大, 是永匡紹. 肝炎ウイルス陽性者対策が急がれる非肝臓専門科は? 肝臓. 64(11): 587-589. 2023.
5. 井上泰輔, 井出達也, 内田義人, 小川浩司, 井上貴子, 末次 淳, 池上 正, 瀬戸山博子, 井上 淳, 柿崎 暁, 榎本 大, 立木佐知子, 遠藤美月, 永田賢治, 是永匡紹. 拠点病院以外の肝疾患専門医療機関における院内肝炎ウイルス陽性者対策調査. 肝臓. 64(12): 649-652. 2023.

2. 学会発表

1. 高濱やよい，一場佐恵子，戸島洋貴，戸所大輔，柿崎 暁，中島有香，三上有香，秋山英雄，浦岡俊夫，是永匡紹. 眼科病棟における肝炎ウイルス検査結果説明システムの構築について. 肝臓 64 巻 Suppl. (1) A281. 2023

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

3. その他

啓発活動

1. ○柿崎 暁，戸島洋貴. 令和5年度群馬肝炎医療コーディネーター養成研修会 2023年12月12日～2024年1月31日 WEB開催
2. 戸所大輔，戸島洋貴，柿崎 暁，是永匡紹. 眼科のための感染症セミナー 群馬県・研究班共催
2023年11月22日 前橋市
3. ○戸島洋貴，柿崎 暁：令和5年度群馬県肝疾患診療連携拠点病院等連絡協議会「群馬県の肝炎対策状況について」
令和6年2月21日 主催：群馬大学肝疾患センター WEB開催
4. ○柿崎 暁，戸島洋貴. 市民公開講座 日本肝臓学会肝がん撲滅運動
2023年7月23日 高崎市
5. ○柿崎 暁：令和5年度群馬県肝炎対策推進協議会「令和6年度肝炎対策事業について」
2024年3月21日 前橋市

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし